



写真① 石狩八幡神社寄贈の手水鉢

の石狩八幡神社の先に飛驒屋の
木場がありました。木場があつた
のは、飛驒屋が南部木こり集団を
石狩川の支流、豊平川上流や支
笏湖付近の山に送りこみ蝦夷ヒノ
キの伐採を行っていたからです。伐
採は冬に行われ一定の規格に加工
し、春、雪解け期に筏に組んで河
口の木場へ集めました。

このように手水鉢は、江戸・南
部・石狩のつながりと蝦夷ヒノキの
伐採の歴史を伝える貴重な資料
なのです。

注 「クナシリ・メナシの戦い」とは寛
政元年5月に起きたアイヌと和人の争
いのこと。当時は「寛政蝦夷蜂起」と呼
ばれ、双方に多数の死者がでました。

なお、寛政元
年5月に道東で
「クナシリ・メナシ
の戦い」が起き、
飛驒屋は責任をとらされ蝦夷地
から去り、石狩川上流域などの蝦
夷ヒノキ伐採は終わります。

(石橋孝夫)

写真② 手水鉢側面
一字目「奥」、
二字目「州」の
くずし字

ERIS 「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。

江戸・南部大畑村と石狩のつながりは？

写真①は今年、市に寄贈され
た寛政元(1789)年の年号が
刻まれた手水鉢です。これはこの
年3月、石狩弁天社に江戸本材
木町(現東京都日本橋)の小林店
喜兵衛が奉納したものです。

写真②は手水鉢の側面で「奥州
南部大畑村」と彫られています。
どうして、江戸から奉納されたの
に「大畑村」(現青森県むつ市)
とあるのでしょうか。そのわけ
は、当時、大畑村には飛驒屋久
兵衛の店があり、飛驒屋が手水

鉢の奉納(制作)に関わったため
と推測されています。

当時、飛驒屋は大畑村で南部
のきこりを集め、蝦夷地に送り蝦
夷ヒノキ(トドマツなどの針葉樹)
を伐採させ、船で江戸や大坂に送
り大きな利益を上げていました。
奉納者の店が江戸本材木町に
あつたことからこの店も飛驒屋の
材木を扱っていたのでしょう。

では石狩と飛驒屋・小林店はど
うつながるのでしょうか？ 実は
当時、石狩川河口、具体的には今



石狩川河口の木場(新札幌市史第1巻1より引用一部改変)



石橋 孝夫 Takao Ishibashi

専門分野は考古学と石狩史。石狩紅
葉山49号遺跡の発掘を手がけたほ
か、縄文時代から江戸時代に至るサケ
漁の方法や文化について研究する。